



アプローズ代表理事 光枝茉莉子

働く喜びを伝え、社会へ飛び出す背中を押す。

色鮮やかな花を手に取り、独自の感性で束ねていく。(アプローズ南青山)の作業場でフラワーアレンジメントに取り組むのは、知的・精神障害がある人々。出来上がった商品は、ホテルやレストランへと配達される。以前は都の職員として障害者就労施設の運営支援に携わっていた。

「感じていたのは工賃の低さ。毎日通っても全国平均で月に1万6000円程度しかもらえません。しかも多くが箱折や封入などの軽作業。もっと働く喜びを感じられる場所を作りたいと思っていました」

経験はなかったが、「お客様に直接喜んでいただく機会が多いのでは」との理由で選んだ花屋の業態。約25人のスタッフが、プロフローリストの指導を受けながら働いている。立ち上げ以来、「山あり谷ありです」と苦笑する光枝さんだが、特に苦戦したのがクオリティコントロールだ。「当初はとにかく自由に作ってもらっていました。でもそれだけではデザインは面白くてもクオリティが保てない。対価をもらう以上、一定の品質を満たす必要がある、そのために技術を磨く必要がある、と理解してもらおうの時間がかりました」

「大切にしたいのは、障害がある方を福祉の枠組みに囲い込まないこと。可能性を潰すことなく、より広い社会へステップアップするきっかけを作れたらなと思っています」

「一般的に障害者雇用では、最低週20時間以上働くことが求められるんですが、ソーシャルファーム事業所では、週10時間の短時間で勤務が認められるんです。例えばスタッフの一人は、お子様に障害があるお母様。限られた時間の中ではありますが、活躍してくれています」

「誰でも生き生きと働ける場を作る光枝さんいわく、「動くって、生きてる実感を得られる、何より大切なものなんです」と。そしてこう続ける。「都で働いていた頃は、支援する側/される側という力関係を感じていましたが、いざ現場で一緒に働いてみると、関係に上下も区別もないんですよね。目の前の課題と一緒に取り組む仲間。共に生きるために何ができるか、頭で考えるよりもまず一緒に手を動かすことで、世の中は少しずつ変わるのでないでしょうか」

For Me And You

- 1 対価とやりがい、その両方を提供できる職場を作る。
- 2 仕事の意味を伝え、プロとしての技術指導に徹する。
- 3 週10時間の超短時間労働など、働く選択肢を増やす。

APPLAUSE GARDEN

2021年6月にオープンしたオーダーメイド花屋。知的・精神障害や発達障害のある人を対象とした就労継続支援B型事業(アプローズ南青山)から派生して誕生。フラワーアレンジメントの制作と配達を行っている。

光枝茉莉子

みつえだ・まりこ/東京都で8年間勤務した後、独立。2014年に一般社団法人アプローズを立ち上げ、花のビジネスを通じた福祉の新しい形を追求している。

